

外交における現実の打開

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

キャンプデービットの日米韓の会議は、必ず台湾有事における密約である。それらに対して独自外交における世界情勢の分析を提案したいと考える。

ウクライナ情勢は、ロシアと中国の同盟という現実において、中国の一切の提案は西洋主義下、唯一否定されるものである。一帯一路は、西洋という現実に対して完全に無力なのである。

これらは、西洋陣営は自己ビジョン以外認めないことを意味する。これらは日本においても例外でないことは全ての政治家が必ず理解できるのである。

西洋陣営は心の底から戦争を希求しているのである。世界を有することがその要求である。

これらが現実であり、選択は必ず現実を基盤としなくてはならない。

軍と経済は両輪であり、その意味と価値を等しく現実に有するのである。その理解は独自外交における現実の打開を提案するものである。

戦争から逃げるものは、戦争において自己を失うものである。

これらは NATO とその世界戦略に対して、独自ビジョンを提示することを提案するものである。

融和と協調というアイデアは、対立と争いという現実に対して、必ずその合意を有することができるのである。

一切の情報の開示とともに、革命戦を求め、天下三分の計を求めることは可能なのである。それは英邁に理解を求めるとき、2分化すれば双方で戦いを求めるのである。3分化すれば、戦いは選択とともに与えられるのである。

信念は岩をも砕くのである。それが日本人の美德であると、人かに信じるものである